

平成26年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

		学校整理番号	14
(1) 学校教育目標		学 校 名	青森県立八戸北高等学校
		全日制課程	本校、校舎、分校
(2) 現状と課題		自己評価実施日	平成27年 2月17日(火)
		学校関係者評価実施日	平成27年 2月19日(木)
(3) 重点目標		(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
		学校評議員 2名、保護者（PTA会長、副会長 3名）4名 計 6名	
(4) 結果の公表		学校ホームページ上で公表する他、次年度のPTA総会で報告する。	

自 己 評 価				学校関係者評価		(10)次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) - ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	基本的学習態度の育成と授業及び評価方法の改善	・シラバスを活用するとともに、観点別評価のより効果的な在り方を研究・実践する。 ・ 考査や学習時間調査などを通して生徒の実態を把握し、それを基に、生徒の学習習慣の確立を目指すとともに、個々に応じた学習指導の徹底に努める。 ・ 授業を第一と考え、公開授業、研究授業、相互参観授業を実施し、授業改善を目指す。	・各教科の協力を得て、シラバスを完成し、活用した。また、それによって授業計画の重要性や観点別評価に対する意識が高まった。 ・成績会議等を通して、生徒の成績についての情報共有を行っている。学習時間は進路希望調査で調査しているほか、各学年でも独自に行っており、その中で得られた情報は個人面談などで活用している。 ・授業公開は2回実施した。研究授業や相互参観授業も予定通り行われた。また、生徒対象の授業アンケートを実施し、それぞれの担当者が自らの授業を振り返る機会となった。	B	・生徒や保護者を対象に行っている各種アンケート（生徒への授業アンケート、学校運営等に関する保護者アンケート、授業公開の参観者アンケート等）の結果から、教科指導における問題点が何かを見極めて、次の改善へと繋げてほしい。 ・学習センターで管理している書籍、資料等の積極的な活用を推進してほしい。	
	学校の現行制度と教育課程をより効果的に運用する方法の研究と実践	・新学習指導要領に対応した、より効果的な教育課程の編成と運用を図る。 ・授業時数の確保とともに自習のない完全授業を目指す。 ・2期制、45分授業、単位制を効果的に運用するとともに、現行制度のさらなる改善に努める。	・教科主任会議を中心として、次年度の教育課程案を編成した。 ・可能な限り授業交換を行い、自習時間を作らないように努めた(自習時間：前期8回、後期6回)。 ・他校の状況等を参考にしながら、現行制度とその効果的な運用方法等について検討した。	B		
2	規律ある生活習慣の確立と交通安全教育の充実	・生徒指導部が中心となり、朝の登校指導を通じて、挨拶を励行し、遅刻防止、身だしなみの確認を促すとともに、集会時にも服装・頭髪指導を実施する。 ・交通安全意識を向上させるために、集会時での生徒指導部からの指導のほか、交通安全教室を開催する。 ・自転車利用者の安全意識の向上のため講習会を行うとともに、防犯意識を高めるためにツーロックを推進する。	・積極的に挨拶をする生徒が増え、遅刻をする生徒が少なくなった。また、服装・頭髪で注意される生徒もかなり少なくなり、注意されても素直に改善するようになってきた。 ・横断歩道の正しい渡り方や歩道の歩き方についてのマナーは浸透してきているが、完全に定着されたとはいえない。 ・自転車の安全運転に対する意識は高まってきているが、ツーロックに関してはまだ徹底されていない。	B	・日頃から挨拶、服装、言葉づかい等、身だしなみの指導に努めている点は評価できる。 ・今年度、SNS問題に関する講演会や心のケアのための緊急支援カウンセラーの派遣等を主体的に行ったことは評価できる。良いと判断される活動は単発に終わることなく、継続実施するようにしてほしい。また回数も年に1度だけでなく、複数回実施することを検討してほしい。	
	いじめ問題への理解と対応の徹底	・「学校いじめ防止基本方針」について、教員間での周知を図り、いじめの未然防止と早期発見、早期解決に努める。 ・年3回のいじめに関するアンケート調査を実施する。 ・SNS問題について、講演会の開催等を通じて、生徒・保護者がともに考える機会を設ける。	・教員間でいじめ防止等に対する意識が高まり、生徒に対する声がけ、情報の共有が積極的に行われるようになった。 ・いじめに関するアンケートは、質問項目、実施方法等に改善を加えながら、年3回実施した。 ・SNS問題について、生徒・保護者・教職員対象の講演会を9月に実施した。また、PTA・生徒会と連携して、スマートフォン等の使用について、家庭でのルールづくりを推進した。	B	・生徒が自らの健康管理ができ、健康に対する意識が向上するような、わかりやすい保健指導を心がけていく。 ・色覚検査の実施については、次年度は保護者の理解を得た上で、学校全体で取り組み、生徒に正確な情報提供を行うように心がけたい。	
	心身共に健康な生徒の育成	・保健室来室者の詳細な問診を心がけることにより、生徒の健康管理意識を高めるとともに、悩みを抱える生徒に対しては個別に対応する。 ・日頃から各学年・保健室との連携を大切にし、必要に応じて専門機関との連携を図る。	・保健室で問診後に指導を行う際、保健資料等も活用しながら対応したことで、生徒の健康管理意識の向上につながった。また、個別に対応が必要な生徒については、学年と連携し、カウンセリング委員会などで話し合い、対応した。 ・保健室来室状況や欠席状況等から、学年・保健室で情報を共有し、必要に応じて医療機関を勧めたり、スクールカウンセラーと連携するなど、早期対応に努めた。	B	・色覚検査が学校現場で行われなくなって以来、色覚に特性がある者が就職、進学の際に不都合を感じるケースが全国的に見受けられるので、色覚検査の実施に組織的に取り組んでいくことが望まれる。	
3	継続的に進学実績を生み出すための進路指導システムの構築	・「難関大プロジェクト」については、対象生徒の選出基準等をより明確にする。 ・難関大AO入試については、本校独自の指標作成を目指し、指導資料のストックを今年度も継続する。 ・「難関大プロジェクト」とともに基礎力養成の指導にも力を入れている旨を、PTA総会等で説明し、保護者の理解を求める。	・難関大への出願数は推薦AO入試では増加したが、一般入試では厳しい状況だった。しかし確実に、難関大を第一志望とする生徒は増加している。 ・これまでの「難関大プロジェクト」を分析した結果、国立難関大AO入試については効果的であったが、一般入試については課題が残されており、改善について検討した。難関大AO入試の指導資料のストックは完了した。 ・PTA総会及び年度始めの学年PTA集会において、進路指導の計画・方針を説明し、理解を求めた。	B	・進路指導部が中心となって作成した『高い塔を建てよう!』は非常に面白そうな、興味深い内容の資料である。内容をどんどん改訂してよりよい参考資料となるように今後努めてほしい。 ・大きな壁に当たった時にどう乗り越えればいいか、誰でも迷うことがある。周囲に相談するなどして、様々な可能性の中から適切な選択をするように指導してほしい。 ・積極性や自ら主体的に工夫して問題解決を図る力を育成してほしい。	
	キャリア教育に根差した進路指導の推進と充実	・アクティブラーニング型授業を、授業公開、研究授業として設定し、その手法を教員間で共有できるよう努める。また、アクティブラーニングの先進校視察を積極的に推進する。 ・県教育委員会の「進学力を高める高校支援事業」を効果的に活用し、1年生に対する様々な仕掛け及び教員の教科指導力向上のための事業を企画・実施する。 ・2年生については、将来どんな自分になりたいのかについて深く考えさせ、様々な職業や学問に関する研究を行わせる。 ・進路指導部が中心となり、生徒・保護者に対して適切な進路情報の発信・提供に努める。	・授業公開の際に、先進校視察に行った教員がアクティブラーニングについてコメントした上で授業を行うことにより、その手法を意識した授業参観を促した。また、学校視察を含めた校外研修を計画的に実施できた。さらに、進路指導部の教員によるアクティブラーニング型授業の授業公開も行った。 ・既に1年生及び教員に対して「進学力を高める高校支援事業」を実施し、参加した生徒・保護者・教員の意識を高めることができた。 ・2年生において、前期はグループ単位で職業研究を行い、ポスター発表をした。 ・主な進路行事については学校HPに掲載してもらい、その発信に努めてきた。また学年PTA集会については、1・2学年で年2回の開催を支援できた。	A	・年度末に改訂した「難関大プロジェクト」の各学年の具体的な取組について、進路指導部会議で取り上げ、さらなる改善に向けて検討したい。 ・一般入試において、最後までこだわりをもって難関大を受験する生徒を育てるために何が必要か議論を進めたい。 ・教務部・SSH推進委員会と連携して、アクティブラーニング型学習活動のさらなる浸透に努めたい。 ・1、2学年の年2回の学年PTA集会開催は次年度以降も継続的に支援し、保護者の方々への「難関大プロジェクト」及び基礎力養成重視の指導体制についての周知を図っていく。	
4	SSH基礎枠および重点枠各事業の推進と成果の普及	・探究心・思考力・表現力等が効果的に育成されるよう、各事業に工夫・改善を加える。 ・各事業の評価を的確に行うとともに、外部との交流及び紙面・ウェブを通じて積極的な普及と情報発信を行う。	・SSアクティブイトではESDプロジェクトを導入し、各HR独自の校外活動及び発表の機会を設けたり、SSリサーチでは中間発表会にて個々の生徒に対し複数の教員が各観点で評価を試みるなど、各事業で工夫・改善を進めた。 ・他校生・小中学生との交流を深めるとともに、学校HPのSSH関係記事等でSSH事業の成果普及・情報発信に努めた。また、第二期5年間全体の成果と改善点を踏まえて運営指導委員会にて評価を仰ぎ、第三期申請書類に反映させた。	A	・科学をテーマとした研究を英語でプレゼンテーションするのは、生徒とても緊張するし、英語の先生方も指導で大変だったとは思いますが、それまでの努力の積み重ねは大いに評価できる。 ・英語のプレゼンテーションは、年々何らかの改善が見られ、フロアからの鋭い質問も楽しみである。特に、今年度は、従来の先生方に加え、大学の米国人教授、三沢基地内の小学校・高校の米国人教員も交えての質疑応答が繰り広げられ、そこでは指導者・生徒の垣根がなく、懸命に英語で答えようとする生徒たちのひたむきな姿に、グローバル社会での科学者の卵としての輝きを見出すことができた。	
	校内支援体制の確立	・本校SSH事業全般に関する教員対象の校内研修会を実施する。 ・校務運営委員会および拡大SSH推進委員会等を通じて、各事業の目的・内容の共通理解を図るとともに、SSH事業への積極的な協力を呼びかける。	・校内での共通理解を図り協力体制を確立するために、SSHに関する校内研修会を実施した。次期申請に関しては、校内での情報提供及び検討の時間が十分とれなかった。 ・拡大SSH推進委員会では教員の率直な意見を収集できた。また、SSアクティブイトのディベートでは多くの教員が指導を担当した。SSH関係の研修会や生徒引率にも広く協力が得られた。	B	・過去10年間の事業の成果は、来年も本校の事業で活かしていく。また県教委主催の探究型学習成果発表会等、対外的にも、同様に普及していきたい。 ・SSH関係の情報を積極的に提供し、教員の理解を深め、校内支援体制の確立をさらに推進していく。	

(11) 総括	今年度はいじめ防止等への取組が学校的最優先課題の一つであった。県教育委員会のいじめ防止対策審議会及び県青少年健全育成審議会いじめ調査部会から出された提言を踏まえ、いじめの防止等さらに努めていきたい。学習指導については、進路指導部が中心となりアクティブラーニング型の授業実践が様々な教科で徐々に広まりつつある。今後、確かな学力の育成に繋がることを期待したい。SSH事業においては、生徒の研究活動の質的向上が目覚ましく、運営指導委員等から高い評価を受けるようになった。また、他のSSH事業においても改良が加えられ、大きな成果を生むようになった。今後はそれらの成果を校内外に積極的に普及していきたい。部活動で特筆すべきは、弓道部2年生女子生徒が全国高等学校弓道選抜大会で個人優勝と技能優秀選手賞受賞という偉業を成し遂げたことである。このような生徒の素晴らしい活躍は他の生徒たちや学校全体にとって大きな励みとなるものであり、そのようなことが契機となって学校がさらに活性化されることを期待したい。
---------	---